

あなたは“もしもの時”、どうしますか？

# 自分や家族の安全を守るために



## ■小泊中学校で合同防災訓練

小泊赤十字奉仕団、下前・新町2・折戸地区の自主防災会、小泊中学校1年生の合同防災訓練が12月2日(木)に小泊中学校体育館で行われました。

合同防災訓練では、非常災害食「ハイズックス」による炊き出し訓練や新聞紙を使ったスリッパづくり体験、ラップと雑誌を使った骨折の応急手当の方法などを行いました。

### ○非常災害食「ハイズックス」

#### による炊き出し訓練

訓練では、小泊赤十字奉仕団や自主防災会の人たちは、手慣れた手つきで作業し、生徒たちは教えてもらいながら着々と仕上げていました。



## ○講習会

講習会では、身近にあるものを使った防災グッズの作り方や、応急手当の方法を学びました。

実際に新聞紙を使ったスリッパづくりを体験したり、ゴミ袋を使ったカップの作り方を教わったりしました。

また、災害用備蓄品の「段ボールベッド」「コット」「エアマット」の展示や使用体験も行いました。

日本赤十字社青森支部事務局長の館篤さんは「いつ発生するかわからない災害に備えることが大切。いざというときに、率先して動ける力を身に付けてほしい」と期待の声を上げていました。

小泊中学校1年生の角田藍花さんは「ハイズックスの空気を抜いて、結ぶところが難しかった。災害がもしも発生したら、今日学んだことを活かしたい」と意気込みを話しました。



新聞紙を使ったスリッパ作り



災害用備蓄品の展示



## 〇“もしもの時”に備える

この合同防災訓練は、2014年から毎年行われており、今年で8回目になりました。

毎年訓練することで地域の結束を固め、“もしもの時”の心構えができ、とまどうことなく迅速な対処や炊き出しを行うことができます。また、小泊中学校の1年生も毎年参加しているため、若い世代にどんどん災害時の対処方法の知識が受け継がれていきます。

最近では、トンガ北部での噴火による津波や、たくさんの巨大地震の想定などがあり、いつ大規模災害が起きてもおかしくない状況です。

このような状況だからこそ“もしもの時”に備えることが必要です。自分や家族の命を守るためにも、去年春に配布した防災ハザードマップや、町ホームページに掲載されている自分たちの地区の避難場所を確認し、迅速な避難ができるようにしましょう。また、非常持ち出し品の準備や点検をしましょう。

事前の準備ができていると災害が起きてしまったときに慌てることなく、命を守るための最善の行動をとることができます。

また、電話がつながらなくなることを想定し、SNSなどの連絡手段を複数用意したり、離ればなれになったときの集合場所を家族で話し合ったりして、災害に備え、被害を減らせるようにしましょう。

## 地域一体となって 被害を減らし、乗り越える

## 自主防災会



新町2 自主防災会



折戸地区自主防災会の訓練

### ■自主防災会とは

地震や風水害などの災害が発生した際に被害の防止や軽減を図るため、地域で助け合い、防災力を向上していくための組織です。

町内では8地区で設立され、日頃から避難訓練や勉強会、避難所や備品の確認など、いざというときに備える活動をしています。

### ◆設立地区

【中里】

芦野、今泉、田茂木、長泥、若宮

【小泊】

折戸、下前、新町2

(五十音順)

### ■自主防災会を設立しませんか？

災害に備えるには、自助・共助の意識を持った自主防災会を設立し、地域で災害を乗り越えていく地域防災力の向上が不可欠です。

“もしもの時”に隣人と協力し合い、救出救護、避難誘導、避難所での支援を行うことが大切になります。

設立に関するご相談は、総務課消防防災係で受け付けていますので、お気軽にどうぞ。